

## 資料

### 【海外からの4人のプロフィール】



ジャン・ピエール氏 John Piermont Montilla

1976年9月26日に、フィリピンのネグロス島で生まれる。裕福な家族の方であったが、幼い頃父親から虐待を受けて、15歳の時に家を飛び出しストリートチルドレンとなる。その後、洗い場や掃除などのアルバイトをしながら路上で生活をし、その暮らしの中でもう一度勉強したいという気持ちが現れ、大学に通うお金を貯めるために仕事を探し始める。そして West Visayas State University に入学し、アルバイトをしながら5年間かけて学士号を取得し、またマニラにある De La Salle University にて博士号を取得した。現在彼は West Visayas University のジェンダーと開発のオフィスでパートタイムとして働きながら、ストリートチルドレンのサポートをしている。



セツァ・ドラミニ氏 Prince Cedza Dlamini

現在ボストンにある Tufts University に在学中で、国際関係学と起業について勉強中である。幼い子に対しての読み書きの教育プログラムや、大学などの機関を回って学生と対話形式のセッションを通して、様々な問題の解決に繋げるプログラムなどを積極的に活動している。目標としては、若者リーダーたちで平和を推進するようなグローバルネットワークを作ることである。また、古代アフリカで宗教的な哲学であるウブンツが、今後世界にある問題への解決の道に繋がると信じている。ウブンツとは、言語的には思いやり、他者への尊敬と理解を意味する。南アフリカ共和国前大統領ネルソン・マンディラ氏の孫。



ベルミア・ラディセビク氏 Velimir Radicevic

セルビア・モンテネグロに在住。17歳の高校生。2004年5月にワールドユースピースサミットのヨーロッパ大会にセルビア・モンテネグロの代表の一人として参加する。その後、“Europe in Schools”という、学問的なコンテストに参加して1等賞を受賞する。同年10月に Budva というモンテネグロ人が住む町で行われたユースサミットに共同司会、また副議長として参加した。



ウィリアム・マッキンリー氏 William McKindley-Ward

アメリカのノースカロライナ州のグリーンズボロにある、Guilford College に在学中。大学在学中に、アイルランドにある、Glencree Centre for Reconciliation という団体にボランティアを1年間し、そこでは北アイルランド紛争で、生活に困難な人たちをサポートした。またこの NGO において、リサイクルプログラムを展開した。最近では、“Food not Bombs” という団体に、スーパーマーケットで出る残飯などを集めて、ホームレスの人たちに配布するボランティア活動をしている。